

第五卷 あらすじ

ナジムによって、国の現状とゼムラに抱いた疑念の中身を知ったサムと七人の男達は、ゼムラと「マギラ」によって失われて行く、「人間」を取り戻すための心の戦いに立ち上がります。

しかし新しい国の政策は、国を分けてしまうことになります。

ゼムラは、「マギラ」によってもたらされる便利な生活が、サムによって否定され、不便で不安な生活が推し進められていることを国中に訴えて回ります。

…やがてゼムラの勢力に押しやられ、川辺の周辺に追いやられて行くサムたち一団は、そこにルイの集団に倣った理想の暮らしを作り上げて行きます。

——「マギラ」とは、その昔、サム先祖によって土地と財産を奪われ、その全てを失ったと考えるゼムラの先祖によって作り出された、「復讐兵器」でした。ゼムラの先祖は、マギラに秘められた計り知れない力の中に幻想を抱き、その力によって、人間をコントロールできると考えました。しかし、そのコントロール機能は、過去の出来事の中に失われ、ゼムラとその一族は、そのことに気付くことのできない状況を作り出しながら、「マギラ」は人間の脅威へと育て上げられて行きました。

そして時は過ぎ、或る出来事の中で、二つの勢力はぶつかり合うことになります…